

女性が活躍する

林業の仕事ガイド

森を育て、木を届ける仕事――



女性の皆さんのが就職先の選択の一つとして、
林業現場で働く女性の先輩たちの事例から
林業という仕事の魅力をご紹介します。



林业ってどんな仕事？



林业は、木材を生産するだけではなく、私たちの暮らしに不可欠な水をはじめとする森からのさまざまな恵みを受けていくためにも、なくてはならない大切な仕事です。

ところが、林业で働く人たちが高齢化などで減少しており、林业の現場で働く若い力が求められています。

一方、近年、林业現場で働く女性が着実に増えています。その理由として、高性能林业機械など機械化が進み、体への負担が大きく減り、安全性も向上したことなどがあります。

こうした中、皆さんの中でも林业の現場で毎日汗を流しています。

自然を相手に働く林业ならではの魅力がそこにはあります。

このガイドではそうした先輩たちの仕事の1コマを紹介します。

このガイドでは4つの分野に分けて、林业や林业と関係の深い仕事を紹介します。

FILE 1 木を伐る、木材を生産する

FILE 2 木を植える、森を育てる

FILE 3 森を調査し、計画をつくる

FILE 4 木材を集荷・販売する、加工する

もくじ

林业ってどんな仕事? 1

FILE 1 木を伐る、木材を生産する

チェーンソーを極める 3

FILE 1 木を伐る、木材を生産する

重機を操る醍醐味! 5

FILE 2 木を植える、森を育てる

未来に豊かな森を届ける 7

FILE 3 森を調査し、計画をつくる

森づくりのプランを描く 9

FILE 4 木材を集荷・販売する、加工する

木材で森と人をつなぐ 11

林业で働くために

どんな勤め先があるの? 13

・Q & A

・林业で働くための方法 14

・まだまだある! 林業のかくれた楽しさ!

森を調査し、計画をつくる

二度目の間伐





い
しょくりん
植林

林業では人の手で育てられた人工林が主な仕事場になります。植林は人工林の出発点です。畑やハウス等で育てられた苗木を植えます。春に植えるのが一般的です。



ろ
した が
下刈り

苗木を植えてから5～6年間、夏に勢いよく伸びる雑草に負けないように、年に1～2回カマや刈払機を使って刈り取ります。



は
じよ ぱつ
除伐

若木の中で、成長が悪い木、他の木の邪魔になっている木を伐ります。この作業を除伐といいます。



に
かん ばつ
間伐

植林後15年以上経過し、木が混み合ってくると木がひよろひよろに細く伸び、林内にも日光が届かなくなります。そこで木を間引くことを間伐といいます。



ほ
しゅ ばつ
主伐

一定の樹齢(60年前後)になると、伐採して木材を収穫します。そして、植林等により次世代への更新を図ります。このような工程を繰り返し、持続的に森林資源を循環利用していくことが林業の仕事です。

木を伐る、木材を生産する



チェーンソーを極める

チェーンソーで木を伐る。

林業現場にこだまするチェーンソーの音。1本1本の木を見極め、見定めた方向に的確に、かつ安全に伐倒する女性林業技能者の姿が増えています。己の力と技術を磨き、日々、精進する世界がそこにあります。

●仕事する場所は?

主に人工林と呼ばれる森林です。スギやヒノキなどが植林された森林で作業します。

●仕事内容は?

チェーンソーや林業機械で木を伐倒します。

●適性のある人は?

まず、体力に自信がある人。アウトドアなどが好きで、自然の中での仕事をしてみたい人。林業道具や大型機械などに興味がある人に向いています。

自然の中で季節の移り変わりを感じられる空気が好き。

長谷川優美さん((有)古川林業・岐阜県)



伐倒前に倒す方向を確認します。 チェーンソーによる伐倒



チェーンソーによる伐倒後に、その場で、枝葉を払い、必要な長さに切る「玉切り」という作業を行っています。



長谷川さんは大学で教職を目指すも、在学中に森づくりに関心を持ち、山林を所有する会社を探し、卒業と同時に200年以上の歴史ある古川林業に就職しました。以後、造林から伐採まで現場で汗を流しています。「最初の1年は体力的にしんどかったです。家に帰ると、バタンキューでした。雨の日はお休みです。トイレについては気にしたことありません。仕事の魅力は、日々試行錯誤しながら、自らの成長を感じながら仕事ができるところですね。また、私は自然が

好きなので、森に入ると空気が良くて神聖な感じがします。季節と共に移り変わっていくことが直に感じられるところも好きです」と語る長谷川さん。

「この仕事は体力が必要で、誰にでも向いているとは言いません。でも慣れるまで続けられれば、面白い世界が広がっています。あまり気負わずに、やりたいと自分が思ったらやってみたらよいと思います」と長谷川さんは語ります。

地域の山づくりに貢献できる技術者になりたい。

早乙女愛海さん(高原林産企業組合・栃木県)



チェーンソーによる伐倒



フォワーダも担当します



作業班とランチタイム。自然の中で食べるお弁当はまた格別

早乙さんは地元の農林高校で林業コースを専攻。在学中に里山管理の重要性を知り林業で働くことを決意しました。インターンシップでいくつかの林業会社での体験を経て高原林産企業組合を選びました。その理由について早乙さんは「林業はただ木を伐って売るのではなく、健全に森林を循環させていくという理念が素晴らしいと思った」と言います。入社以来、植林や下刈り、チェーンソーによる伐採、さらにはグラップルやフォワーダなどの林業機械による搬出なども担当し

ています。このほか、森林調査、測量なども行うそうです。「林業の仕事は正直きついです。でも、それ以上にやりがいがある仕事だと思いますし、やっていて楽しいです。だから続けられる。そして職場の皆さんも本当にやさしくて感謝しています。女性も十分働ける職場だと思います。ちょっとキツいかもしれないけれど、自分が想像していたほど働きにくいことはないです」と早乙さん。将来の抱負は、地域の山づくりに貢献できる技術者になることだそうです。

チェーンソーの頂点を目指せ!

世界伐木チャンピオンシップ(WLC)

世界伐木チャンピオンシップ(WLC)は、世界伐木チャンピオン協議会が主催する40年以上の歴史を持つ由緒ある林業技術の大会。隔年で開催され、ヨーロッパを中心約30カ国、100名を超える選手が参加します。

日本でも、日本伐木チャンピオンシップ(JLC)が開催され、世界伐木チャンピオンシップ(WLC)に出場する日本代表選手を選出するため全国から広く参加選手を募っています。



JLCで競技を競う日本の女性選手。世界大会出場も夢ではありません。



WLC2016 ポーランド大会で女性で初出場したスペインの選手。2018 ノルウェー大会では特別に女性クラスが設けられました。

特殊伐採・アーボリスト

近年、アーボリスト(樹護士)と呼ばれる技術者による特殊伐採に注目が集まっています。支障木、危険木の伐採はもちろん、樹木の保護・景観づくりなど、樹木管理全体を担う専門職です。その技術はリギングと呼ばれ、国際組織である国際アーボリスト協会(ISA)によって体系化されています。



木のバランスを見て枝をチェーンソー やノコで切り、ロープを駆使して吊り降ろします。

重機を操る醍醐味!

伐倒、搬出、造材する林業機械のスペシャリスト。

伐採現場で活躍する林業機械。街中で見かける建設機械とは異なり、足場の悪い山の中の現場でその威力を発揮します。林業機械操作をマスターすれば、そこには男女の違いはありません。女性の細やかさ、丁寧さが大いに生かせる仕事です。

●仕事する場所は?

主に人工林と呼ばれる森林です。スギやヒノキなどが植林された森林で作業します。

●仕事内容は?

①伐倒：チェーンソーや林業機械で木を伐倒します。

②搬出：道沿いや土場といわれるスペースや

林道沿いに伐り出した木を移動します。

③造材：伐られた木の枝を払い、商品となる長さに切れます。

●適性のある人は?

アウトドアなどが好きで、自然の中での仕事をしてみたい人。特に、大型重機などの機械の操作や運転に興味がある人に向いています。

現場の仲間と一緒に楽しく安全に。プライベートも充実。

永見優子さん(山口県西部森林組合)



愛用の重機を大事にする永見さん。

「無事に帰る」をモットーに、永見さんの発案でつくったブッキー君というキャラクター。無事故継続中だとのこと。



お気に入りの林業機械を操る永見さん。
3名の作業班でコミュニケーションを大事に安全に効率よい作業を心掛けています。

永見さんは、旅先で林業現場を見て興味を持ち、機械好きもあって、林業で働きたいと思ったそうです。その後、山口県西部森林組合で、班長と実弟と3人体制で集材搬出、運搬などを担当しています。「現場で工程を考えて作業することが楽しい。現場毎に環境が変わるから仕事の攻略感もあるし、間伐後に山が明るくなることにもやりがいを感じ」と林業の魅力を語る永見さん。「私はこの仕事に水が合っているけど、まず林業現場に見に来てもらって自分で感じても

らって決めた方がよいと思います。女性の方が慎重だし、もつたないことが嫌い。だから安全で丁寧に作業効率性を追求するから、女性は林業に向いていると思います。この仕事は日中しかできないから、日が暮れれば自分の時間。また雨が降れば休みなので代替日を調整すれば、プライベートも積極的に楽しめています。これは大きいですよ」と仕事の魅力を語ります。

先輩を盛り上げ、後輩の道標になりたい。

中谷万季さん((株)神子沢林業・山梨県)



様々な林業機械を操る中谷さん。



運転席に乗り込む中谷さん。



中谷さんが操作するハーベスター。林業機械の導入で女性も男性と変わらず働ける環境になっています。

(株)神子沢林業は、以前から女性採用に積極的で現在6名が現場で働いています。写真の中谷さんは重機オペレータ及びバイオマス部門を担当。実は産休・育休を経て現場に復帰しました。「先輩を盛り上げ、後輩の道標となる人材になりたい」と抱負を語る中谷さん。特に女性の先輩の存在

が心強いと口を揃えます。

神子沢社長は、女性採用に当たり「現場では機械オペレーターは女性が最優先。産休・育休制度も当然のこと」と語ります。

現場で活躍する高性能林業機械

タワーヤーダ



急斜面の現場で伐倒された木を人工支柱を使ってワイヤーで運ぶ集材機。

プロセッサ



道端や土場などで、伐り出された木の枝払いや長さを計測した玉切りを連続して行う自走式機械。

ハーベスター



伐倒、枝払い、玉切りの各作業と玉切りした材の集積作業を一貫して行う自走式機械。

フォワーダ



玉切りした丸太をグラップルクレーンで荷台に積んで運ぶ集材専用の自走式機械。

未来に豊かな森を届ける

造林、育林—木を植え森を育てる。

戦後、日本各地は、はげ山だらけでした。そこに多くの先人達が汗を流して木を植え、現在の緑豊かな国土になっています。その人工林が収穫期になり、主伐が行われています。今、また植林をする時代に入っています。ところがそれを担う人材が不足している状況です。木を植え育てる女性の力が求められています。

●仕事する場所は?

主伐など広い面積で伐採された跡地です。

●仕事内容は?

- ①地拵え：苗木を植えるために雑草や灌木を取り除き、整地します。
- ②植林：苗木を植え付けます。
- ③下刈り：植林後、5～10年間、苗木の生長を妨げる雑草や灌木を刈り払います。夏の暑い盛りに行う作業です。

④除伐：下刈りが終わった後、植栽木の枝が接するまで数回行います。

⑤間伐：20～30年ぐらいすると林内が混み合ってくるため、成長の悪い木などを間引きします。

●適性のある人は?

力仕事には自信はないけれど森づくりをしたい人、自然の中での仕事をしてみたい人。

コンテナ苗の生産からドローン技術研修も手掛けたい。

小田ちはるさん、池田道子さん（小田林業・宮崎県）



小田林業の小田ちはるさん（写真右）と池田道子さん（写真左）

伐採跡地に苗木を植えます。

近年、主伐が増え、
その伐採跡地の植林が急がれています。

宮崎県にある小田林業は、小田直樹・ちはるさん夫婦による130haの山林経営からスタート。現在13名体制で、伐採、搬出（販売、地拵え、植林、下刈り）を行っています。近年は伐採から造林まで一貫作業技術の普及にも意欲的で、コンテナ苗の生産を手始めに、ドローンを活用した造林技術の導入にチャレンジしています。東京都出身の池田さんは、大学卒業後、緑のふるさと協力隊、地域おこし協力隊を経て、

小田林業に入社しました。現在、造林関係全般、測量、森林調査、さらに、事務業務のサポートも行っています。「自分のバランス感覚を信じて、現場技術を伴った素材生産と造林、さらには行政との橋渡しができる現場人になりたい」と池田さんは抱負を語ります。流暢な宮崎弁を交えたコミュニケーション力で新規事業にも意欲的です。



森と地域の未来を育む人材を目指して。

土田瑞恵さん、大西紗椰さん、岡島春萌さん、伊藤涼香さん(北村林業(株)・北海道)



写真上段左から、土田瑞恵さん、大西紗椰さん、写真下段左から、岡島春萌さん、伊藤涼香さん。大西さん、岡島さん、伊藤さんは近隣の農林高校出身で、林業を目指す流れが出てきています。



女性職員の意見を取り入れて作成した会社のロゴデザイン



女性職員のための移動トイレを導入。とても好評です。

北海道にある北村林業(株)では、従業員29名で、現場職員は24名(平均年齢33歳)で、植林から間伐までの事業を行っています。作業の効率化と労災防止の観点から最新の高性能林業機械を積極的に導入しています。女性の採用に積極的で、現在、4名の女性職員が働いています。土田さんはOL時代に林業に关心を持ち、林業説明会を通じて就職。大西さんは地元の農林高校在学時に林業で働くことを決意し、高校教諭の協力を得て就職。ともに造林を中心に冬場はハーベスター等の重機も担当します。岡島さん、伊藤さんは、大西さんの高校の後輩で、在学中からインターンシップを通じて採用されました。「女性が働けない産業に未来はない。そこは変えていかないと」と北村社長は語ります。

「植林のいま昔」

コンテナ苗の普及

近年、主伐が急速に増加したことから苗木の需要が高まっています。そこで従来の露地で生産する裸苗から、植えた後の生存率が高くて、植栽時期が長く短期間で生産できる「コンテナ苗」の生産が全国的に増えています。



露地植えによる裸苗の生産



ハウスでのコンテナ苗生産

シカによる被害が急増

近年、分布域を広げているシカ等野生鳥獣による被害が深刻化しており、森林においては、苗木の食害のみならず、樹木の剥皮による天然林の劣化や下層植生の食害、踏みつけによる土壌の流出など大きな影響を与えています。せっかく植えた苗木がシカに食べられないよう、防護柵を設置したり、苗木に食害防止用のカバーをしたりして対処していますが、増えすぎたシカの捕獲も急がれています。



各地でシカが増加し、森林被害の報告が増えています。



シカによる苗木の食害を防ぐためカバーをしています。

女性が主役だった植林

昭和初期から昭和30年頃の植林作業は山村の女性達が従事できる数少ない仕事で、山村の女性達にとっては貴重な就業の場でした。戦後の荒廃した山林の緑化を支えてきたのは、山村に暮らす女性達でした。



昭和初期のスギの植え付け(鹿児島県出水)



昭和30年代のスギ穂採種(鹿児島県川内)

植林の技術開発

近年、林業においては特に人手不足が深刻になっています。そこで作業者の負担をできるだけ抑えるため、ドローンによる苗木等の運搬も実証が行われています。また、苗木の自動植付け機などの開発も進められているところです。



ドローンによる苗木運搬
(写真: 架線集材の低コスト化・省力化技術研究会)



ガソリンエンジンを使用した苗木自動植栽機の開発も進められています。



森づくりのプランを描く

調査・測量、森林施業プランナー

調査の技術と知識を持ち、森づくりの計画を立て、森林所有者の心を掴み、着実に事業実施に繋げる仕事も林業には欠かせません。森林調査・測量や森林施業プランナーといった仕事では、女性ならではのコミュニケーション能力を活かして活躍する女性の姿が増えています。

●仕事する場所は?

調査対象となる森林全てが対象。森林施業プランナーの場合、林業現場での監督や森林GISの普及で、事務所内でのパソコンによる作業。

●仕事内容は?

- ①調査・測量：事業対象地となる森林で、測量や森林資源の調査を行います。また、森林所有境界を調査したり、作業道や林道の路線設計のための調査も行います。
- ②森林施業プランナー：森林を経営するための計画作成、作業道開設から間伐や主伐

などの現場管理を行い、現場と事務所をつなぐ重要な役割を担っています。さらに森林所有者への事業説明会の開催や、木材販売の見積もり作成など、業務は多岐にわたります。また、「森林施業プランナー認定制度」があり、認定試験に合格すれば認定森林施業プランナーとして、森林組合や林業会社で業務に就くことができます。女性のプランナーも多く活躍しています。

●適性のある人は?

体力にはそれほど自信はないけど、森林を調査したり林業について勉強することが好きな人。

調査・測量を通じて森林所有者さんの信頼に応えたい。

鷺崎実並さん、稻塚早代さん(岡崎森林組合・愛知県)



岡崎森林組合で働く鷺崎さんは入社5年目で調査・測量を担当。「森林所有者さんの要望に応えられて喜んでいただけた時が嬉しいです。地域の人も組合の人も温かい人ばかりでここで働けてよかったです」と言います。新人の稻塚さんは安城農林高校森林環境科を卒業後、入社し、鷺崎さんと同じ調査・測量を担当。「高校で森林関係を学んだので組合に就



岡崎森林組合の皆さんたち。
やさしい職場の仲間たちと共に日々頑張っています。

岡崎森林組合の鷺崎実並さん(写真左)
と稻塚早代さん(写真右)

職しました。女性の先輩がいるのは心強いです」と稻塚さん。森林組合に施業を依頼している森林所有者さんたちの評価も高いそうです。「自分の祖父母より年上の森林所有者さんの話を受け止め、真摯にアドバイスする女性の力が発揮されています。女性ならではの分野・能力で力を発揮して、組織が成り立つことが理想です」と荻野専務は言います。

森林所有者さんの信頼を得て地域の山をよくしたい。

瀬川瑠衣子さん(富山県西部森林組合)



富山県西部森林組合高岡支所長の南部伴次さん(写真左)と現場を調査



富山県西部森林組合高岡支所の瀬川瑠衣子さん

富山県西部森林組合は、本所、砺波支所、高岡支所、氷見支所で構成され、それぞれが地域性を活かした特徴を持っています。瀬川さんは高岡支所に就職し認定プランナー資格を取得しました。現在はプランナーとして間伐施業の森林経営計画地の取りまとめ、作業道の路網選定、施工管理、さらに天然林の更新伐(老齢化した広葉樹を70%伐採・搬出し、若返りを図る)も手掛けています。

「初めての森林所有者さんへの説明会でうまく説明できなく

て悔しい思いをしました。でも2回目の森林整備の報告会で“ありがとうございます。またよろしくね”と声を掛けて頂いてとても嬉しかった」と瀬川さん。南部支所長も「森林所有者さんの信頼もあり、良い部下に恵まれました。今後は女性のプランナーも増やしていきたいです」と評価します。「プランナーとして勉強することがいっぱいある。今後は山を良くするためにさまざまな資格取得を目指し、勉強していきたい」と瀬川さんは抱負を語ります。

フリーの森林施業プランナーとして地域課題解決のサポートを。

内海美沙さん(森林施業プランナー・京都府)



家の裏の危険木の伐採・チェーンソー製材＆チェーンソーアート講習会などを行いました。

内海さんは京都府の森林組合で森林施業プランナーとして活躍していました。体調を崩し組合を退職。その後、体調も回復し、フリーのプランナーとして講師や研修指導といった仕事のほか、地域の課題解決に寄り添った活動を行っています。例えば、所有山林の活用および境界などの森林情報に関する相談や、家の裏の危険木の伐採など、暮らしの安心安全に関する相談をよく受けるそうです。

そのような声を受けて、「チェーンソー製材実験会」を開催し、雪害木の有効活用を提案したり、「ロープワーク高所伐採技師養成講座」で、森林所有者から依頼されていた家の裏の危険木の伐採を実際に行うなどの活動をしています。「林業は面白ないとアカン!」を合い言葉に、内海さんは、今日も地域の声を受け止めて課題解決に向けた活動を続けています。

ICT技術の導入が進む森林調査

近年、林業現場にもICT技術の導入が進んでいます。特に精密な森林資源調査などで、ICT技術の活躍が期待されており、ドローンによる調査や3次元レーザースキャナーにより、樹木を3次元計測し、立木を1本ずつ自動調査することも可能になりました。

精密なデータに基づいた新たな森林管理が可能になっています。



ドローンによる空中から森林資源を把握。写真左はドローンから撮影した画像です。



3次元レーザースキャナー(写真左)を回転させることでドーム状のスキャンデータを得ることができます。そこから本数・直径・樹高はもちろん、立木位置図、3次元立木マップが作成できます(写真右)。従来の人の手による計測は負担が大きい割には情報量が限定され正確性の面でも課題がありましたが、ICT技術の普及で大きく改善されることが期待されています。

木材で森と人をつなぐ

木材市場—木材を流通する

山から伐採した木材を製材業などの木材の買い手が競って売買するための「市」を開催する市場。また、最近では市を行わず、直接山から大型工場に直送するケースも増えています。今後は、このような木材の生産者と需要者の間の需給情報を細やかに把握し、円滑な流通を担う役割が期待されています。

木材加工工場—木材から製品をつくる

国産の原木丸太を材料に、板や柱を挽く製材工場、合板を製造する合板工場、ラミナという板材を接着して柱や板をつくる集成材工場やCLT工場などでの利用が増えています。一方で、木工品や家具などを製造する工場もあります。木材加工に携わる女性が働く場が増えています。

●仕事する場所は?

- ①市場：市場が開催される土場または事務所内
- ②木材加工業：主に工場等作業スペース

●仕事内容は?

- ①市場：木材を出荷する人と木材を求めている人との間での売買を仲立ちします。情報を集め、双方の需給調整を担います。
- ②木材加工業：多くは工場内での作業を行い

ます。また、木材を購入したり、製品の販売先に営業をしたりします。

●適性のある人は?

コミュニケーション能力は営業などで大いに力を発揮します。また手先が器用であれば木材加工をはじめ、さまざまな製品づくりにも能力を発揮できます。木や木製品に愛着がある人、広報活動や営業が得意な人。

木材供給する山側と利用する工場とのコーディネーター役

青木ももさん(新潟県森林組合連合会)



新潟県森林組合連合会の青木ももさん。



口競り市の風景。製材所などから木材を買いにきたお客様の熱気が伝わります。

新潟県森林組合連合会は県内の森林組合で構成された組織です。新潟県最大の国産材供給基地として、木材市場を運営しています。ここで各地域の森林組合・林業会社から出荷される木材を販売しています。月に2~3回の口競り市を開催しており、ここで売られた木材が家の柱などに使われています。また、伐採現場等で品質・規格ごとに振り分けられた木材を県内の製材工場、合板工場、バイオマス発電所等へ直接販売する直送販売業務も行っています。

青木さんは大学で森林環境学を専攻し、卒業後に木材流通部に就職。現在、共販市場の事務や市前に検査作業等の準備、市後は売上処理をしています。「市場には大型車両が入ってきて、丸太の出荷、市で購入した丸太の引取があり、お客様が声をかけてくださるとうれしく思います」と青木さん。また、「直送販売の予約等の窓口も担当しており、「需要と供給(工場と出荷者)のバランスを満たしていくのは難しいと感じますが、そこにやりがいを感じています」と青木さんは語ります。

代々受け継いだ山林から住宅部材や木工品を販売。未来に山をつなぎたい。

野中優佳さん((株)ゆうき代表取締役・熊本県)



先祖が植えた美林を大切に引き継ぎながら、未来につなぎたいと野中さん。森のツアーの会場としても活用。



低温乾燥機「愛工房」



低温乾燥した材を工務店に販売、木工品製作も手掛けます。



熊本県山鹿市にある(株)ゆうきの代表取締役を務める野中優佳さんは、野中家5代目として山林を受け継ぎました。2014年に父と(株)ゆうきを設立。低温乾燥装置「愛工房」を導入し、自社の山林から伐り出した原木を隣町の製材所で製材を行い、「愛工房」で乾燥し加工した住宅部材や木工品を販売しています。この愛工房材にこだわるファンも多いそうです。現在、地域の下刈りや間伐等の作業請負が事業の主力ですが、今後は自社山林からの愛工房材生産のウエイトを高めていきたいとのこと。このほか、森林や林業のことを広く知ってもらいたいと、「森のツアー」も開催しています。「現場作業では辛いこと、きついことがありますが、それ以上にやりがいと誇りを持って仕事をしています。森林という日本の財産を、そして先祖から託されたバトンを未来につなぐことができるよう、色々なことにチャレンジしていきたいです」と野中さん。過去・未来と長い時間を実感できる林業は感謝を感じる仕事だと語ります。

木育の普及を通じて林業や木材産業のことを知ってもらいたい。

小崎尚美さん((株)杉工場・福岡県)



(株)杉工場で働く小崎さん。



杉工場で加工された机。



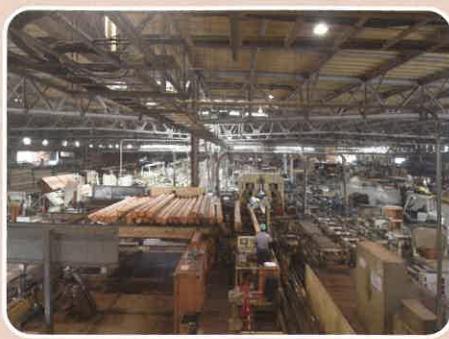
小崎さんが力を入れる木育。写真は木育キャラバンでの会場。仕事以外にこうした活動でも活躍中。

小崎さんは神奈川県出身。大学卒業後、「森林たくみ塾」(岐阜県高山市)で木工を学び、「きまま工房木楽里」(埼玉県飯能市)、佐賀市の森林組合勤務を経て、2014年に福岡県うきは市の地域おこし協力隊に就任。3年間、木育の普及等に取り組み、木育キャラバンも担当。2017年4月から(株)杉工場に就職。以後、組み立てラインで組立作業に従事しています。一方で、市内の木材関係者で「うきは木育くらぶ」を立ち上げ、小崎さんはその代表として活躍中。その一環として地元スーパーの一角に木の玩具で遊べる木育ひろばを設置。「林業や木材産業のことを知ってもらう拠点にしていきたい」と小崎さんは熱く語ります。(2018年10月現在)

トピック

国産材大型製材工場

近年、国産材を主な原料とする年間素材消費量が10万m³を超える規模の大型の製材・合板工場が増えています。理由としては、国内のスギやヒノキ、カラマツといった人工林が成熟し、主伐期に入っていることがあげられます。従来、輸入丸太に頼っていたところも、輸入より安定して木材が確保できることが魅力になっています。こうした工場で働く女性の姿も増えています。



福島県東白川郡塙町にある協和木材(株)の塙工場。
国産材製材としては最大級の規模を誇ります。



女性従業員も多く見られ、
地域の雇用を支えています。

林業で働くために



どんな勤め先があるの？

林業の仕事には大きく分けると、森林を植えて育てたり、木を伐る仕事を担う民間の林業会社、森林所有者を組合員として地域の森林経営を担う森林組合の2つがあり、木材産業では、木材を取り扱う原木市場や木材会社があります。最近では企業団体の先進化・多様化が進み、新しいスタイルを模索する林業の現場も増えてきています。

林業会社

森林所有者から立っている木を買って伐採して市場などに販売する形態が多いです。また、造林を専門に行う会社もあります。最近は、建設業から参入している会社も見られます。

森林組合

森林所有者を組合員とした協同組合です。森林がある全国のほとんどの地域をカバーしており、約600あります。

国や都道府県の森林林業関係の助成制度の受け皿として、地域の森林経営の推進役として様々な業務を担っています。

組合によっては森林作業班を独自に持ち、さらには原木市場や木材加工施設や販売施設を経営しているところもあり、その形態は様々です。

原木市場

林業会社や森林組合から集荷された木材の市を開催して製材工場などに販売しています。いち近年は山の現場から直接大型工場へ直送されるケースも増えてきたことから、木材の供給先と需要先を情報で繋ぐ新たな形態が期待されています。

木材会社

従来の丸太から板や柱を挽く製材工場、ラミナと呼ばれる木片から柱などを生産する集成材工場、丸太を剥いて重ねて板を生産する合板工場、柱材を建材に加工するプレカット工場などがあります。近年は大型化が進んでいます。一方、家具や小物をつくる会社も多くあります。



Q1 女性でも体力的についていけますか？

A 林業機械の導入が比較的進み、男女の体力差が問われない作業環境になってきています。また森林施設プランナーなど比較的体力を重視しない職種もあります。

Q2 危険な作業が多く、安全面で心配です。

A 安全を重視した林業技術を習得する研修制度があります。また、安全防護装備も近年急速に普及しています。機械の改良も進み安全に対する意識は高まっていますが、常に自分自身が安全への意識を持って仕事に取り組むことが大切です。

Q3 トイレや着替えはどうしていますか？

A 8頁の事例のように移動式トイレを導入する会社もあります。また着替えについては移動中の公衆トイレなどに立ち寄るなどの配慮をする会社もあるようです。

Q4 女性特有の体調不良や産休・育休にも対応してくれますか？

A 会社ごとの判断になりますが、女性を採用する会社の多くはそうした配慮ができているところが多い傾向があります。会社を選ぶ際によく確認してみましょう。

林業で働くための方法

就職を希望しているなら…

森林の仕事ガイダンス

森林の仕事ガイダンスは、新たな林業の担い手の確保・育成を目的に、森林・林業に関心を持つ方を対象に実施する説明・相談会です。会場には、参加都道府県の林業労働力確保支援センターや森林組合連合会が相談ブースを設け、各地の林業に関する情報、林業作業の内容や就業までの流れについての説明、参加者からの相談に応じます。



インターンシップ

地元の森林組合や林業会社で短期間のインターンシップを体験して、就業を決めるケースもあります。各都道府県の林業労働力確保支援センターにお問い合わせ下さい。



森林の仕事ガイダンス風景。
写真は森林組合の林業現場で働く女性。このガイダンスで先輩の説明を聞いて東京から就業した女性もいます。

もっと林業を学んでから就職を考えたいなら…

林業大学校等への進学

近年、林業就業者の育成を目的とした林業大学校等（教育・研修機関）の設立が相次いでいます。多くが1年制あるいは2年制で、高校卒業を入学資格としている例が多いようです。2018年末時点で、17校となっており、さらなる新設が予定されています。林業大学校等は都道府県等が設置・運営している学校です。また4年制大学への編入受験資格の取得が可能な学校もあります（専修学校）。

10～20名程度を定員としているところが多く、実習に力を入れており、森林・林業に関する様々な資格取得が可能です。卒業後は林業現場の即戦力として活躍する若者が全国で増えています。

大学への進学

森林・林業に関する学科・科目がある大学は、2018年末時点で全国に28校あります。森林科学科や生物環境科学科など学科の名称は大学によって様々で、各大学の地域性や伝統など、その大学ならではの強みや個性が見られます。大学で学んだ知識を生かし、

卒業して林業の仕事をこなす女性も少なくありません。



まだまだある！林業のかくれた楽しさ！

山のこと 知らない人でも ほほうと楽しめ、山のこと 知ってる人は くすりと笑える、林野庁の女性職員が描く、林業マンガ「お山ん画（おやまんが）」もお勧めです。

読んで笑って森を応援
林業マンガ「お山ん画」



林野図書資料館 HP



リンちゃん



平成30年度 多様な担い手育成事業のうち女性林業従事者の活躍促進のための課題解決

女性が活躍する林業の仕事ガイド —森を育て、木を届ける仕事—

林野庁 平成31年3月発行

編集：一般社団法人 全国林業改良普及協会

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。